

コース		テーマ	研修目標
診療実践 コース	総論	臨床推論	- 臨床推論における仮説生成の方法を知り、実践できる - 臨床推論における仮説検証の方法を知り、実践できる - 臨床推論におけるAIの利用方法を知る - 臨床推論における多職種連携について知る - 臨床推論における振り返りの重要性について知る
		EBM	- 原著論文や診療ガイドラインを鵜呑みにせず批判的に読み、患者の診療に役立てることができる - エビデンスに基づいた適切な治療を考え、処方薬の整理ができる
		T&A (triage&action) 救急初療	- 病院救急部門において遭遇頻度の高い症候（頭痛、胸痛、腹痛、痙攣など）に対して見逃してはいけない疾患を想起できる - 病院救急部門において遭遇頻度の高い症候に対して診療最初の10分間を適切にマネジメントできる - 救急初期対応に関して知識として持ち合わせていることを、シミュレーション実習を通じてできるようになる
		T&A (triage&action) マイナーエマーゼンシー	- 遭遇頻度の高い外科系救急疾患の緊急度を適切に把握し、専門科への相談の必要性やタイミングを判断できる - 簡単な処置ののち自宅での経過観察が可能な軽症外科系救急疾患のマネジメントを地域・組織の現状に合わせて行うことができる
		行動変容	- 喫煙・食事・運動について患者の行動変容を促す面接を実践できる - 喫煙・食事・運動について確認し、話し合うべき内容を知る - 患者の行動変容への準備段階を評価できる - 行動変容において効果的な面接法を知り、実践できる
		地域包括ケア実践	- 地域包括ケアシステムの必要性を理解する - 各医療・福祉職種に敬意を持つ - 介護ケアプランニングを体験する - アドバンス・ケア・プランニング（ACPP）の意義を理解する
		リハビリテーション	- 一般内科・地域包括ケア病棟において頻繁に遭遇する疾病・障害に対して、病院総合医として必要な領域に特化した評価・訓練・全身管理のポイントを学ぶ - 対象疾患としては、認知症などの神経変性疾患に伴う誤嚥性肺炎、サルコペニア・フレイルのある患者の骨折、低栄養患者の内部障害（心不全やCOPDなど）をテーマとする予定 - その他、リハビリ処方箋の作成のポイント、3療士士の特徴、装具・歩行器の選択などのレクチャーも予定
	各論	循環器	- 胸部症状を訴えて受診した患者に対して、病歴聴取から診断名を絞り込み、適切な対応が取れる - 心電図を適切に読影し、重要な疾患を適切に拾い上げ、また、緊急性のある疾患を診断し、専門医につながるまでの応急治療ができる - 高血圧を指摘された患者に対して、適切に評価でき、必要に応じ適切な降圧薬選択により、継続的フォローアップができる - 動悸を訴える患者を適切に診断し、また、頻脈のおおよその心電図診断ができ、内服治療、あるいは適切な紹介ができる - 脚ブロックや期外収縮などを適切にフォローまたは紹介ができる - 心房細動患者を適切に診断評価し、リズムコントロール、レートコントロール、抗血栓療法を適切に選択し、継続管理できる。超高齢者への抗凝固療法を適切に判断できる - 呼吸困難あるいは浮腫を主訴とする患者に対し、心不全の有無を適切に診断し、その初期評価と初期治療ができ、適切な紹介ができる。HFrEF、HFpEFを適切に紹介できる。また、終末期重症心不全や低血圧を伴う心不全例を含め、慢性心不全患者の適切な継続治療ができる - 虚血性心疾患患者、末梢動脈疾患患者の適切な慢性管理ができる。CTでの冠動脈石灰化例を適切に扱うことができる
		呼吸器	- 発熱と咳嗽で来院した患者に対して、尤度比を意識しながら肺炎の診断を行い、起因菌を想定しつつ、適切な抗菌薬選択を行うことができる - 喘鳴で来院した患者に対して、喘息およびCOPDの診断を適切に行い、さらに急性増悪に関する初期治療を行うことができる - 喘息とCOPDにおける慢性期管理の概要について説明することができる。とくに、最新のエビデンスにも習熟しつつ、吸入デバイスの使い分けも説明することができる - 遅延性咳嗽、慢性咳嗽を主訴に受診した患者に対して問診、身体診察、画像検査などから鑑別診断をあげ、適切な診断、治療ができる
		消化器	- 消化器領域のcommonな問題に対して適切に対応できる - 偶発的に見つかる肝胆膵系の以上に対して、適切なフォローまたは専門医への相談ができる
		糖尿病	- 健診ではじめて高血糖を指摘された患者の適切な診断と合併症の評価を行い、自ら食事・運動指導ができる - セッションを通して、最近の糖尿病薬物療法を理解し次の日からの診療に生かせるような薬物療法、患者教育の実際を学ぶ。 - Diabetes Distressに代表される糖尿病特有の心理的問題や、stigmaに触れ、明日から患者に寄り添える診療の実践につなげることをめざす
		腎・泌尿器	【腎】 - 健診で遭遇する尿異常への対処ができる - CKD（糖尿病性腎臓病を含む）を専門医に送るべきタイミングが判断できる軽症は自分でfollow upすることができる - 腎機能に配慮した薬剤の使い方ができる - 薬剤性腎障害の可能性を疑い専門医に送ることができる（診断） 【泌尿器】 - プライマリ・ケア外来で相談を受ける可能性のある症状（頻尿・夜間頻尿・尿失禁・血尿など）に何らかの対応ができるようにする - 一般的な、頻度の高い泌尿器科疾患を理解して対応できるようにする - 悪性腫瘍などの、頻度は少ないが見逃してはいけない泌尿器科疾患診療のコツを理解する
		神経	- 外来で遭遇頻度の高い主訴である“頭痛”、“しびれ”、“震え”に適切に対応し、専門科への相談の必要性やタイミングを判断できる - 片頭痛/緊張型頭痛/群発頭痛の診断能力を高める - 手のしびれ、四肢のしびれの鑑別疾患を挙げられるようになる - 危険なしびれを知る - パーキンソン症候群を見逃さない
		血液・膠原病	【血液】 - 血液内科を専門としない臨床医が、外来や病棟で日常的に診ている血液疾患と検査値異常に対して、非専門医でもできる問診、診察、外注を含む臨床検査のみで、適切なアセスメントとマネジメントができるようになる 【膠原病】 - 関節痛に対して、適切な診察と鑑別診断を立てられる - 各種自己抗体についての最新の知識に基づき、適切に検査すべき項目を選択し、結果を解釈できる

各論	感染症	・感染症診療の基本を説明、実践することができる ・感染症診療における微生物検査を適切に選択し、解釈できる ・適切な静注抗菌薬、内服抗菌薬の empiric therapy を選択でき、培養結果や薬剤感受性試験結果をもとに適切にde-escalationできる。 ・外来で遭遇する、かぜとその周辺疾患について適切にアセスメントし、マネジメントすることができる。 ・患者ごとに必要なワクチンについて、適切に勧めることができる
	小児科	・重症度、緊急度が高くないとトリージされた、よくある小児の症候を救急外来や急病診療所でマネジメントできる ・科学的根拠に基づいた病状説明で保護者を安心させられる ・3日続く発熱でも安易に小児科に紹介しなくても対応できる ・嘔吐のときに何とか点滴しないで乗り切ることができる ・痙攣が止まっている場合の、こわいときとこわくないときが判断できる ・子どもの効果的な診察のコツとよくある疾患
	整形外科	・一般救急外来の現場で、整形外科外傷に対して適切な初期対応を行うことができる ・非専門医による日常外来において、頻度の高い膝・肩・腰の症状に対して病歴聴取・身体診察・画像評価を行い、適切なマネジメントを行うことができる
	産婦人科	・女性の腹痛や更年期障害に対して、産婦人科へのコンサルトのタイミングがわかる ・緊急避妊ピルや低用量ピルを処方できる ・妊婦や産後の患者に対して安全に薬を処方できる
	耳鼻科	・一般外来や救急外来で遭遇する耳鼻咽喉科領域のcommon disease（中耳炎、鼻出血、めまいなど）を認識し、適切な初期対応ができる ・耳鼻咽喉科領域の緊急疾患（急性喉頭蓋炎、扁桃周囲膿瘍、突発性難聴など）を認識し、専門家へ迅速かつ適切な紹介ができる
	皮膚科	・一般外来の現場で、皮膚救急疾患に対して適切な初期対応を行うことができる ・非専門医による日常外来において、頻度の高い皮疹・皮膚疾患に対して病歴聴取・皮疹記載・検査を行い、適切なマネジメントを行うことができる ・ステロイド軟膏を中心とする外用薬の使い方の基本を学び、積極的に処方できるようにする ・病棟で日常的に遭遇・相談される皮膚疾患に対して、とくに褥瘡処置などの基本を習得する
	精神科	・プライマリ・ケア領域でも遭遇するcommonな精神症状としてのうつと不安・せん妄・身体症状症に適切な対処ができるようになる ・プライマリ・ケア領域では対処困難な精神疾患を持つ患者を早期に判断し、一人で抱え込む前に専門家へつなぐことができる ・人生相談的精神療法がある程度できるようになる ・治療を拒否する患者への対応についての法的事項（精神保健福祉法）について部分的に理解する ・精神科領域の苦手意識が減り、他の非専門領域と同じデモンで対応することができる
	認知症	・非専門医による日常外来で認知症が疑われる患者を拾い上げ、treatable ・dementiaの除外、認知症の種類、BPSDの有無を含めて適切な初期評価ができる ・典型的な認知症に対して、標準的な薬物療法および非薬物療法を実施するとともに、本人及び家族に対して適切な療養指導ができる。 ・家族や専門医、他職種と連携して、心理社会的状況や介護サービス等も考慮した包括的な認知症ケア（BPSDへの対応を含む）を提供し、運転免許の問題や終末期についてともに取り組み、最後まで主治医でいることができる
ノンテクニカル スキル コース	MBTI （性格タイプ別コミュニケーション）	・ユングのタイプ論をもとにして開発されたMBTI（Myers-Briggs Type Indicator）の自己分析メソッドを活用 ・自分に対する理解を客観的に深めていきながら、自分の強みや弱みを認識し、自分の持ち味を組織で発揮していくヒントを得る
	コンフリクト・マネジメント	・チーム医療における意見の葛藤や対立を「チャンス」ととらえ、双方が納得できるような合意形成を導くための方法について学ぶ
	コーチング	・部下の学習と成長を支援するためのコーチングスキルをロールプレイ中心に学ぶ ・基本的なエンパワメントの方法を知ることにより、後輩や部下の自発的な成長を促し、教育効果を高める力を身につける
	教育技法	・学習者のやる気を促進し、次の成長につながるフィードバックができる ・学習者の省察を促し、経験を学びに変える振り返りが実施できる ・短時間で要点を押さえたレクチャーを効果的に実施して、学習者の記憶の定着を図ることができる ・教育カンファレンスを主催し、参加者全員が一般原則を理解し、応用力を高める学びの場に行うことができる
	チームビルディング	・自己理解を深め、自分の持ち味を発揮できるリーダーシップスタイルを見出す ・チームの成り立ちについて理解を深め、チームのポテンシャルを引き出していくためのマネジメントのポイントを体感的に理解する
	ミーティングファシリテーション	・医療チームにおけるミーティングを活性化させ、会議の質と効率を向上させるための、会議ファシリテーションの実践的スキルを学ぶ
	問題解決①（ロジカル思考）	・問題を「ロジカル思考」を使って要素分解するための方法を学び、問題の基本ステップを意識して効果的な解決策を考えられるようになる
	問題解決②（システム思考）	・複雑性の高い状況に対して、「システム思考」の考え方をを用いて、原因構造や下層にあるメンタルモデルを紐解き、少ない力で高い成果をあげるようなレバレッジの高い解決策を見出すための手法を学ぶ
	TEAMS-BI （仕事の教え方）	・正確・安全・良心的に仕事をできるように速く覚えさせるために、業務内容を言語化し、決まったメソッドに従った合理的な手順で教えることを学ぶ ・後進や医療チームのメンバーの日々の指導に活かすことを目指す
	TEAMS-BP（業務の改善の仕方）	・業務内容を細分化し、取り去ったり、簡素化したり、順序を変えたり、組み合わせを工夫したりして、効率的・効果的に改善する方法を修得する ・作業分解シートを用いて日常の業務を振り返り改善する演習を通して、チームで協力して行う業務改善も体験する
	TEAMS-BR（人への接し方）	・職場の人間関係に関する課題において事実分析を行い、よい判断を下して解決を行う方法を習得する ・人との関係をよくする基本心得により、職場でよりよい協力関係を築くことを目指す